

## お金は大切に使おう —正しい金銭感覚を養って、よりよい生活を—

(総授業時数：1時間)

### 実施学年、教科等

第2学年 道徳

### 主題名

「正しい使い方を大切に」

- (1) ねらい 物や金銭を大切にし、正しい使い方を身に付け、よりよい生活をしようとする心情を育てる。
- (2) 評価 登場人物の行動を通して、金銭の大切さに気づき、よりよい生活をしようとする意識を高め、自己を見つめて考えている。

### 資料名

「どうとく 2 みんな たのしく」平成18年度(東京書籍株式会社)

### 主題設定の理由

- (1) ねらいとする価値  
物や金銭を大切にし、正しい使い方を身に付けていくことは、節度ある生活態度や自制心の涵養につながる。物を大切にし、金銭の有効な活用を心がけることから、真の金銭感覚を養うと言える。何事にもお金優先という間違った価値観で、人としての正しい道を見失ってはならない。物や金銭のもつ価値を正しく理解させ、自分なりによく考えて有効に使おうとする態度を育てていくことが大切である。
- (2) 児童の実態  
この時期の児童には、自分の欲求に任せて物を欲しがったり、金銭の正しい感覚が未成熟であったりするという特徴がある。とりわけ、お金の使い方では、金銭の価値が分からず、無計画・無節操に陥ることがある。こうした時期であればこそ、正しい金銭感覚を養い、よりよい生活を心がけていこうとする態度を育てることが肝要となる。
- (3) 資料の概要  
三匹の子ぶたが登場し、文房具を買いに行ったときの話。子ぶたたちは、母から一人100円ずつのおこづかいをもらう。文房具を買いにお店に行くが、トンタは消しゴムをたくさん買い、ブンタはおいしそうなお菓子を買い、ノンタは鉛筆と消しゴムを買ってお釣りをもらう。店から出てきた三人がそれぞれ買ってきたものを見せ合いしたとき、トンタとブンタはあっと叫んだ。

### 展開の特色

- (1) 金銭の価値観を高めるのは、自分の考えをしっかりとって、よく考えた使い方をしたときと言える。つまり、衝動的な買い方やむやみな使い方をしないときである。こうした金銭に対する意識啓発を、道徳の時間を通して、児童の発達段階に即した効果的な資料を活用し、道徳的価値の内面的な自覚を図ることとした。
- (2) 児童にとって身近な話材のおこづかいの使い方を改めて見つめ直すことにより、金融教育の意図する「正しい金銭感覚の涵養」を果たしていく機会を意図した。

### 「学校における金融教育の年齢層別目標」の該当項目

\*記号については、P.32～45を参照。

Aーア・イ・ウ、Bーア、Cーア

### 学習内容のキーワード

物や金銭の価値、金銭感覚、節度、おこづかい、むだづかい、貯金

**本時のねらい**

物や金銭を大切にし、よりよい生活をしようとする態度を養う。

**●本時の展開**

	学習活動	主な発問 ・予想される児童の反応	◆金融教育の視点	★指導上の留意点	その他(資料等)
<b>導入</b>	1 おこづかいの使い方を想像してみる。	もし今、おこづかいを 500 円もらったら、どうしますか。 ・好きなものを買う。 ・貯金する。 ・家の人に預ける。	◆日常生活体験の中で、おこづかいをもらっている児童、特別もらっていない児童がいること的前提からとらえていく。 ◆貯金を例示した場合は、お金を大切にしまい、将来計画的に使用するという生活経験の表われとらえる。	★児童のおこづかいに関する事前の実態調査を行い、実態傾向を参考に発問し、効果的な導入を図る。 ★金額提示は、児童の生活実態から妥当な数字を選ぶ。 ★使い方は、なるべく自由に考えられるようにする。	・おこづかい実態調査資料
<b>展開(前段)</b>	2 資料「おこづかい」を読んで、話し合う。	①トンタは、どんな気持ちから消しゴムを買ったのでしょうか。 ・とてもきれいなので、欲しかった。 ・たくさん欲しかったから。 ②ブンタは、どんな気持ちからお菓子を買ったのでしょうか。 ・とてもおいしそうだったから。 ・お腹が空いていたから。 ③ノンタは、どんな気持ちで文房具を一つずつ見たのでしょうか。 ・自分の一番欲しいものはどれかな。 ・どんなものがあるのだろう。 ・おこづかいを上手に使いたいな。 ④トンタとブンタは、ノンタの買い方を見て、どんなことを思ったのでしょうか。(中心発問) ・ノンタの買い方は上手だな。 ・自分はむだづかいした。 ・本当は文房具を買いに来ていたんだ。	◆金銭にかかわる衝動的・欲望的な使い方の例示。 ◆金銭にかかわる衝動的・欲望的な使い方の例示。 ◆金銭を使う場合、自分からよく考え、必要なもの見極めや前後の状況判断が大切。本場面は、登場人物がその内面的な思考を行動で表現している。 ◆むだな金銭使用を省みて、自分の金銭に関する意識を見つめ直す大切さ。	★文房具購入の目的を忘れ、「きれいさ」や「おいしさ」に心惹かれてしまった心情を押さえる。 ★ノンタのとった行動に着目させ、他の二人とは違ったノンタの心情を考えさせる。 ★トンタとブンタ二人の気づきを取り上げ、その思いから、金銭の有効な使い方を考えられるように導く。	
<b>展開(後段)</b>	3 お金を大切に使いえたり、使いえなかったりしたことを話し合う。	今までの生活で、お金を上手に使いえたと思うことはありますか。 ・お年玉を貯金した。 ・おこづかい帳をつけた。	◆自分の金銭使用について、これまでの生活を振り返り、お金の大切さや計画的な使用、自制心の大切さに気付かせていく。	★忘れかけている金銭の生活経験を想起できるように、効果的な助言を与え、今までの自分を見つめていけるようにする。	
<b>まとめ</b>	4 教師の説話を聞く。		◆金銭にかかわる道徳的価値のまとめをする。	★教師の子供の頃の体験談などを活用し、より具体性や身近さを出してまとめとする。	



資料



1 金融教育のねらいと基本的性格

2 金融教育の目標と方法

3 金融教育を支援する関係機関等の活動

4 金融教育の指導計画の作成と実施に向けて

5 小学校における金融教育

6 中学校における金融教育

7 高等学校における金融教育

資料

1 金融教育のねらいと基本的性格

2 金融教育の目標と方法

3 金融教育を支援する関係機関等の活動

4 金融教育の指導計画の作成と実施に向けて

5 小学校における金融教育

6 中学校における金融教育

7 高等学校における金融教育

資料

●教材・資料等 (本時の授業で用いる教材や資料、ワークシート等)

おこづかい

子ぶたの トンタと ブンタと ノンタは、  
 おかあさんからおこづかいを 百円ずつ もらいました。  
 三びきは、学校で つかう 文ぼうぐを かいに  
 いっしょに おみせに いきました。

トンタが、おみせの 中を 見まわすと、  
 においの する きれいな けしゴムが ありました。

「この けしゴム、ください。」  
 トンタは、百円で けしゴムを いっぱい かいました。

ブンタが、おみせの 中を 見まわすと、  
 文ぼうぐの ほかに、おかしも ならべて ありました。  
 (おいしそうだな。)

「この おかし、ください。」  
 ブンタは、百円で おかしを かいました。

ノンタが、おみせの 中を 見まわすと、  
 いろいろな 文ぼうぐが ならべて ありました。  
 ノンタは、一つずつ よく 見ました。

「えんぴつと、けしゴムを 一つずつ ください。」  
 ノンタは、えんぴつと けしゴムを かって、  
 おつりを もらいました。

三びきが おみせから 出て きました。  
 トンタと ブンタと ノンタは、  
 かって きた ものを くらべて みました。

トンタと ブンタは、  
 「あつ。」  
 と いいました。

(出所) 東京書籍株式会社

「どうとく 2 みんな たのしく」平成18年度